

## なし黒星病の発生に注意しましょう

なし黒星病の発生が県中南部でやや多くなっています（表1）。

表1 発生状況（6月11日、12日現在調査）

	発生ほ場率(%)	発生葉率(%)
県北	13	0.0
県中	60	0.6
県南	75	0.3
県全体	48	0.4
過去10年の平均値	27	0.5

特に、幸水は果実肥大後期の7月上旬から黒星病の感受性が高くなるので、降雨が頻繁で果実での発生が予想される場合には、わずかの晴れ間、または小雨でも薬剤散布を実施しましょう。

病害の発生状況、薬剤の特性（予防・治療効果、残効性、耐雨性）を考慮した適切な防除を行うことで、薬剤散布回数を減らすことが可能となり、効果的な黒星病防除につながります（表2）。

表2 防除薬剤  
6月下旬～7月中旬

薬 剤 名	希 釈 倍 数	使用時期 / 使用回数
デランフロアブル	1,000倍	収穫60日前まで / 4回以内
ベルコートフロアブル	1,500倍	収穫14日前まで / 4回以内
ストロビードライフフロアブル	3,000倍	収穫前日まで / 3回以内
スコア顆粒水和剤	4,000倍	収穫14日前まで / 3回以内
インダーフロアブル	5,000～12,000倍	収穫7日前まで / 3回以内

注)平成19年6月14日現在の農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報に基づいて作成しています。

### 【防除上の注意点】

- (1) 発病した果そう基部、葉、果実は二次伝染源になるため、見つけ次第ほ場外に持ち出し、埋設等処分を行う。
- (2) 現在、葉に発病が多いほ場では、治療効果の期待できるEBI剤（スコア顆粒水和剤、インダーフロアブル）、QoI剤（ストロビードライフフロアブル）を6月下旬から7月中旬に追加して散布する。但し、耐性菌対策のためEBI剤の使用は年2回以内が望ましい。
- (3) 黒星病は感染後、発病までに15日程度の潜伏期間があるため、現在発病した葉や果実が見つからなくても、常になしの状況を観察し、防除を徹底する。
- (4) 薬剤散布に当たっては周囲への飛散（ドリフト）に十分注意する。

詳しくは、農業環境指導センターまでお問い合わせください。

TEL 028-626-3086

<http://www.jpp.ne.jp/tochigi/>